

---

**◎看護部だより**

---

今年度は、60年度に行った研究を継続し完成させることにした。

追加項目に、糖尿病教室に於ける質問で「1単位消費するためには、どの程度の運動をどれ位行えばよいか」という質問をうけた。

テキストには色々書かれているが、もっと簡単に、自分で確かめ、指導の際確信をもって出来る方法をさぐる事にした。

**院内研究発表**

期 日 昭和61年1月9日

1. カーデックスの改善

発表者 高田信江・吉尾慶子

2. 片マヒ患者の自立へむけての退院指導

発表者 田熊正栄・石田美枝子

カーデックスの改善は、従来使用している様式を改善して、わかりやすく、正確に早く伝達し、業務が確実に実行出来る様に改善した。今迄看護記録に重点をおき、カーデックスは、記録はしても活用されていなかった。B5からB4に用紙を大きくし文字の行間を広くする事により目が疲れない。読みやすい、追加項目変更については、色別のインデックスをつけることにより、変更の項目が一目出来る様になった。この事により、注意を喚起し、ミスがなくなり申し送り時間の短縮と、看護内容の充実をはかる事が出来る様になった。

片マヒ患者の自立へむけての退院指導は、開頭術後の意欲のない、温泉入浴のみを目的として、入院した患者を扱った、一症例である。

家庭の都合で、入院期間が短かく限定され受持ち看護婦は、入院時より少しでも良くなった状態で退院させたいとあせった。しかし、看護婦が力を入れる程には、患者は反応せず、無気力で一時は、看護に行きづまりをみた。

活路に家族を加えて、一緒に訓練中をはげまし、少しの進歩を共に喜び、支えることにした。そして、退院後の生活の場における手すりの取付け、段差の工夫等を指導し退院をしていった。

6カ月後受もち看護婦は、家庭訪問をして想像もしていなかった恢復と、主婦として自立をしている事を知った。

病院内では非協力的、反抗的で看護婦をうけつけてくれなかった患者が、家庭では、指導した事を守り、実行している事に驚きと感激をした一症例の報告である。

この事例は、昭和61年3月8日、鳥取県看護協会看護研究発表において発表をした。

### 3. 運動療法指導の目安

リーダー 西村伸子

カロリーカウンターを使って得た、カロリー数値を利用し、具体的でより効果的な運動療法を指導する目的で取り組んでいる。

## 委員会活動

### 業務委員会

退院時要約検討メンバー10名で、過去の退院記録の中から、現病歴、入院中の病状、治療、検査結果の経過、看護上の問題点、看護経過の要約、退院指導についてひろい出し、様式の検討、要約記録に関する申し合せ、チェック体制、記録側、外来通院へ続く場合、情報を受けとる側等、それぞれの意見を盛りこんで、試行錯誤を繰り返しながら、内容を改善した。

### 安全対策委員会

安全対策委員11名で、看護業務遂行上おこる、さまざまな問題について具体的な検討をすすめた。まず、看護業務と法的責任の学習を行い、参考資料をもとに生活援助における事故防止、感染防止、災害防止、看護職員申し合せ、医師との話し合い等について、詳細に検討した。

まとめて、文章化し看護職員全員に1冊宛配布する予定。